

陽だまり

No.32

第40回広島県PTA研究大会みよし大会



みよし大会
実行委員長
天野 芳明

〓三次市全体が
一つになった大会〓

9月26日(日)晴天の下、広島県内より1300名を超える皆さんの参加をいただいて、第40回広島県PTA研究大会みよし大会が盛大に開催できましたことに対し、地元PTA会員及び実行委員会を代表して心よりお礼申し上げます。

昨年の5月に実行委員会が立ち上がり、総務・接待・会場・ステージの4つの部に分かれて準備をしておりましたが最初の頃は手探りの状態でした。次期開催地PRでは、三次市名物のひとつである三次どんちゃんを行うため何度も練習を重ね、ふくやま大会の約一ヶ月前に開催した三次市PTA連合会主催の研修大会で披露し、会場全体が一体となり、三次市全体がおもてなしの心で県大会に取り組んでいく意思の確認をしました。本番のふくやま大会でもその気持ちや勢いに乗ったまま

の状態でPRができており、今思えばあの頃から団結力が増していったと感じています。

今年の3月には行政のご配慮により無償で事務室をお借りし、着々と組織強化にも取り組んでまいりました。話し合いを重ねる中、それぞれの部が大会成功に向けてのやるべき事が明確化し学校や地域の枠を超えて連携意識が深まりました。まさにこのメンバーだからこそ三次市全体が1つとなり、大きな大会を成し遂げる事が出来たと感じております。

今、私たち大人がしなければならぬ事は、次世代を担う子ども達が夢や希望を持てる地域づくりに取り組んでいく事だと考えます。「未知の可能性を秘めた子どもたちのために」家庭・学校・地域が絆を強め、夢を実現する子どもを育てようを大会スローガンとして開催した研究大会において、家庭・学校・地域それぞれが役割を考え協力し連携の絆をより一層深めるための取り組みについて情報発信できたものと考えております。

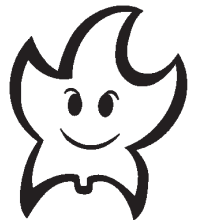
この大会が、参加されたすべての方及びPTA活動の一助になれば幸いです。会を開催するにあたりご尽力いただきましたすべての方に感謝するとともに、心よりお礼申し上げます。

大会報告

県P連会計 藤井 正志

大会当日は心配されていた天候にも恵まれ県内各地から千三百名を超えるPTA会員の皆様をお迎えし盛大に開催されました。会場となった県立みよし公園カルチャーセンターロビーの一階と二階では地元特産品を販売され、休憩の際には行列になるほどの盛況ぶりです。また、日P大会PRの際には大会一年前という事もあり、会場内が一つとなって大会をみんなで盛り上げて行くんだという雰囲気十分に広がっていました。県P大会の次期開催は二年後ですが大会旗を引き継がれた大竹市の皆さんの熱い想いも十分に伝わり、広島県全体が熱くなつた素晴らしい一日となりました。





PTA 2011 HIROSHIMA

去る8月26日(木)～28日(土)にかけて、第58回日本PTA全国研究大会ちば大会が開催され、来年度の開催地である私たち広島県PTA連合会は、実行委員を中心に、総勢約170名が参加してきました。

日Pひろしま大会実行委員会からの報告

一日目 八月二十六日(木)
運営打ち合わせ会議・歓迎レセプション



ちば大会実行委員長による歓迎の挨拶

P役員、ちば大会実行委員との運営打ち合わせ会議、そして歓迎レセプションに出席し、翌日から大会本番に向けて最終打ち合わせと、大会成功への決意を新たにしました。

初日である26日は、分科会実行委員は各分科会場への挨拶回り、翌日行われる次期開催地PRの打ち合わせが行われました。また、本部実行委員は日



大会役員との打ち合わせ(左は山本実行委員長)

二日目 八月二十七日(金)
分科会



おそろいの帽子でお出迎え



分科会PRもばっちり!



いらっしやいませ!



三日目 八月二十八日(土)
全体会

幕張駅に到着後、会場まで道々に立つスタッフの方と挨拶を交わしながら進んでいくと、昨日とはうって変わってロビーには大勢の人・人・人!まさに全国大会の幕開けでした。会場に到着すると、「ひろしま」のために大きな部屋を用意し、スタッフを配置していただき、大変ありがたいと思いました。

その後はそれぞれの担当に分かれていろいろと視察させていただきました。誘導の動線はどうなっているか、スタッフの動きはどうか、自販機やトイレなどへの人の流れ。『グリーンアリーナだったら』、『自分たちだったら、どう動くか』、『何を用意する』、『スタッフの意識をどうやってまとめるか』。メンバー一同必死になっていました。



開会式が始まると、会場の空気が一変し、凛とした静寂に包まれました。相川日P会長の挨拶から始まり、粛々と式典は進みます。開会式の最後に次期開催地「ひろしま」のPRをさせていただきます。前日の練習の甲斐あり堂々としたPRができたと思います。今年の研究大会の講演はテレビでもおなじみの松岡修造氏でした。実を言いますと、個人的に「がんばれ!」と言われるのがどうも苦手だったのですが、今回の講演でそのイメージががらりと変わりました。松岡氏が「がんばれ!」と言うのはなんでもやみくもにがんばれというわけではなく、やり方を教え、目標を設定した上でそこに向かって「がんばれ!」と応援しているのだそうです。子どもを対象にテニスやいろいろな活動で応援を続けている松岡氏の熱い、けれど冷静に分析しながら相手成長させていくやり方はまさに子育ての極意にも通じるものがありました。



閉会后「ひろしま」ののぼりとともに出口に並んでお見送りをさせていただきました。「来年度開催の広島です」「来年お待ちしています」の声に多くの方が微笑んでくださり、「がんばってください!」との声もたくさんいただきました。今回の全国大会は開催地千葉から次期開催地広島、そして再来年の京都へとつないでいくという強い思いを感じました。それはスタッフのみならず参加されている方々からも伝わってきて「全国」の仲間が一堂に会する「大事な大会なのだ」ということを肝に銘じました。心のこもった「ひろしま大会」をみんなで作り上げたいと思いますながら会場を後にしました。



第58回日本PTA全国研究大会ちば大会 報告

第1分科会 組織運営

県P連理事 黒田雄次郎（竹原市立竹原小学校）

千葉県市川市文化会館で行われた第1分科会では、研究課題「学級のPTAなくして、日本のPTAなし」を今こそ、PTAの原点を見つけよう」と題して学ばしていただきました。基調講演は、正道会館空手最高師範 K-1 統括プロデューサー角田信朗氏「心技体・武道の精神」と題して感謝・礼節・思いやり・謙虚さ・大きな親の存在など多岐にわたり自身の経験を通して、笑いを交えながらも熱く講演をしてくださいました。また、実践発表、パネルディスカッションでは、PTAの組織・運営の改革を行った市川市立若宮小学校の事例を聴きました。組織・運営は、子供が主役！という原点に立ち返ることが重要。そのために、子どもの姿が一番見える学級の子生、現場の声が反映される学級単位のPTAを組織すること。するとPTA会員が主体的になれる。主体性を持ったPTA活動になれば組織がよりよくなると話され、あらためて現状の問題・課題や今からのPTAのあり方について勉強になりました。第1分科会は、「個の力が和（わ）になり、環（大きな輪）に繋がる」という素敵な発表でした。



第2分科会 家庭教育

安芸郡P連 鳴川 雅彦（安芸郡坂町立横浜小学校）

早朝、まだ開館前の千葉市民会館に到着し、目にしたのは準備に集まった大勢のちば大会スタッフの皆さんでした。担当ごとのリーダーさんを中心に最後の入念な打ち合わせ。こちらにもその熱がヒシヒシと伝わってきます。各スタッフが自分の役割を理解し、自発的に動く、これは中途半端な打ち合わせでは不可能です。これまでの幾多にもわたる打ち合わせのご苦労を感じました。

ほぼ満席の第2分科会会場の研究テーマは「遊びから生まれる子どもとの会話」。討議の視点は家庭におけるコミュニケーションのあり方について見つめ直そうというもので



す。基調講演は千葉大学名誉教授の藤澤英昭先生。「今の大人は老人を含めて貧弱になった。昔の大人は叱り方を心得え教養を身につけていた。すべてに白黒をつけてはいけない。子どもには逃げ道が必要。家庭や社会までが学校化し、息苦しくなっている。」親としてとても印象的で、はっとさせられたお言葉をいただきました。情報化の急速な進展で、社会は「効率化」と「高速化」を目指し進んでいます。そんな中、私たち保護者は、今一歩立ち止まって子どもと同じ目線になり、話をし、文字にはできない心のふれあいを大切にしなければならいということとを教えてくださいました。

第3分科会 学校教育

県P連理事 橋濱 智美（三原市立第三中学校）

「子どもたちに残そうこの地球（ほし）の恵み」自然から学ぶ環境教育」という研究課題で第3分科会（習志野市）は開催されました。自然環境の学習を題材に学校教育について考え、地球環境の大切さを再認識するとともに、子ども達の健全育成のため、家庭・学校・地域ですべきこと、できることを考える分科会でした。

一年後の三原市での第3分科会を思い浮かべながら、スタッフの動き・会場の設え・実行委員相互の連携・「おもてなしの心」で参加者を迎える姿等々、多くを学ばせていただきました。

お忙しい中、次年度開催地のスタッフである我々の細かい質問や要望のひとつひとつに丁寧に対応してくださり、とても充実した視察となりました。

今回の視察で得たことが来年度大きく実を結ぶことを信じ、今後一層実行委員一同心を合わせ前進して行きます。

第4分科会 広報活動

県P連会計 藤井 正志（三次市立君田小学校）

第4分科会は「企業から学ぼう！広報・PR」をテーマに全国広報誌コンクール表彰式、基調講演、実践報告が行

われました。

午前中の表彰式が終わり午後から「千葉ロッテマリーンズの『新』集客戦略」と題し原田卓也氏が、また「ハビネスの創出」東京デイズニールゾートのゲストサービスと人材育成」と題し千脇徳夫氏がそれぞれ基調講演をされました。私が一番印象に残ったのは東京デイズニールゾートにおける4つのキーワードであるSSCSでした。運営の要である「安全」楽しみの笑顔・身振り、言葉遣いの「礼儀」キャストを含んだパーク内全てが「ショー」。また、これら全てが達成された上で実現できる「効率」。全てにおいて効率重視の昨今、忘れてかけていた一番大切なものに気付かせて頂きました。



第5分科会 地域連携

尾道市P連 金野 剛（尾道市立日比崎小学校）

私たちの訪れた第5分科会担当の船橋市は、人口60万人とおよそ私達の尾道市の4倍、人口密度では13倍以上。多くの鉄道路線と商業施設を有する巨大な町で、まずはそのスケールの大きさに圧倒されました。そのような大所帯にもかかわらず、我々次年度開催地への細やかな対応を頂きましたことに、大変感謝しております。

前日到着した折にも、100名を超えるスタッフが直前に送られて来た資料の袋詰めのため、黙々と作業をされていた姿がとても印象的でした。



当日は用意したパンフレットも全てお持ち帰りいただき、紹介映像への反応も上々で、ひろしま大会、そしておのみち会場への興味を充分持つて頂いたことを喜んでおりますと共に、寄せられた期待にプレッシャーを感じております。この度、船橋で学んだことを踏まえ、一年間、私たち『尾道』らしい分科会を作り上げて参ります。ご指導、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

第6分科会 人権教育

尾道市P連 土居 征仁（尾道市立瀬戸田小学校）

ちば大会 八千代市で開催された人権教育 テーマ「活かすための性と生」第6分科会を視察してきました。

内容は自分の性と生を大切にせず、子ども達の「10代の望まない妊娠」や「性感染症」が増えているというショッキングでもあり考えさせられる内容でした。

分科会全体の雰囲気は八千代の方々の「皆様をお迎えする」という気持ちがとても感じられるものでした。

八千代の実行委員長からは、八千代はとにかく「八千代カラーのアピール・おもてなしの心・楽しむ！・できることをできる人が」で進めてきたとお聞きしました。特に「八千代カラーのアピール」という事を強く言われていた事に感銘を受けました。

来年に向け私達も「瀬戸田・生口カラー」をいかに出さか、がんばりたいと思います。

第7分科会 国際理解

県P連理事 藤本 恵子（廿日市市立宮内小学校）



「多様な人間との関わり、自分とは違う意見を持った人たちと100%の理解が出来なくても理解をしていく努力が必要であり、そのためにどんな力をつけなければならないのか。今の子は人に気を使っている。慣習や育った環境の違う人間、理解できない人・判り合えない人とコミュニケーションを通じて他者は自分と違っていること。相互意見が異なることに傷つくことなく、他者との関わりを持ちながら成長していく。」以上は要約した内容ですが、国の違いではなく、多様な人間と関わりを持ち、共にお互いの違いを認めつつ学び成長し他者と共存する。それが他者理解であり、ひいては国際理解に繋がる。それは大人にも子どもにも必要な考え方だと感じました。

第8分科会 健康安全

県P連理事 西宮 晴之（府中市立上下北小学校）

「おはようございます、ようこそちば大会へ」のスタッ

フの皆さんの明るくさわやかな挨拶に迎えられ第8分科会は「健康・安全」をテーマに開催されました。

次期第8分科会開催地のわれわれ府中市Pのメンバーに加え、お手伝いいただく神石郡Pより2名の総勢12名は、前日の午後現地入りし会場準備リハサルから千葉市Pの皆さんと合流し、来年の開催に向けた視察と助言をいただくことが出来ました。

大会では「子どもの未来は生活リズム・食と運動の大切さを伝えよう」の研究課題のもと全国から500名を超える参加者が集い学びあえるという素晴らしい体験をさせていただくことが出来ました。基調講演は、早稲田大学競走部駅伝監督でユニバーシアード優勝やアトランタ五輪



1万m代表も経験された渡辺康幸氏によるものでした。『自ら育つ力』という題目で自身の選手人生の中で「急成長」と「急転落」を経験され、現役引退後指導者となり学生たちに接し気付き実践されていることなどお話しいただきました。

目標を自分で見つけることが出来ない若者が多い中で個々の選手（子ども）に明確な目標を自分で決めさせるにはどの様にしたら良いのか、そのために指導者（親）はどの様なことに心掛ければ良いのかなど、ご自身の体験をもとにした貴重な内容でした。

また、実践発表では千葉市内で実施されている給食を通じた食育、体力向上のための取り組み、PTAで取り組んでいる子どもたちの安全サポーターの活動が紹介され討議が行われました。

改めて、参加者全員が日Pひろしま大会に向けモチベーションを向上させ確認し合えた大会でした。

特別第1分科会 日本PTA担当

県P連理事 西本 博之（東広島市立小谷小学校）

「限られた時間、与えられた環境の中で、精一杯生きることが命を大切にすること」：特1分科会では、「命の尊さ大切さ」を研究課題とし、認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本名誉会長の細川佳代子氏の基調講演、前神戸市PTA協議会会長の三木秀美氏から実践発表、そして「命の尊さ大切さ」をテーマにパネルディスカッション

がおこなわれました。物質的に豊かになった社会、しかし反面「生きる」ということの尊さを勘違いしてしまっている。その様な社会環境の中で、細川氏はスペシャルオリンピックスというスポーツ活動を通じて、今を精一杯生きている障害を持った子どもたちに出会った。そこには可哀そうとかいつた生き方はなく、逆に漫然と生きている方々への憐れみを指摘された。分科会では、生きるということ、そして命の大切さを考える有意義な機会となりました。御尽力された関係者皆さまに心から感謝いたします。



特別第2分科会 文部科学省担当

県P連理事 宮上 正好（福山市立吉台小学校）

2010年（平成22年）8月27日に、日本PTA全国研究大会ちば大会の特別第2分科会に参加しました。「新学習指導要領により、学校教育やPTA活動はどのように変わるのか？」のテーマのもと、「生きる力」をばぐくみ「新しい公共」を担うためのPTA活動を考えるための講演や実践発表・パネルディスカッションが行われました。基調講演講師の千葉大学教授の天笠茂先生からは、新学習指導要領のポイントについて講演され、それに引き続き行政から、文部科学省初等中等教育局教育課程課長の平林正吉さんから資料をもとに、新しく改定される内容について説明がありました。実践発表では、家庭と地域がいかに学校教育に参画しているか、取り組みなどについて発表されました。最後のパネルディスカッションでは家庭・学校・地域・行政のそれぞれの立場で、新学習指導要領で謳われている「生きる力」をばぐくみ「新しい公共」を構築するために、これからどのように活動していくことが必要か討議されました。



親であるとともに、地域の一人として、どう地域に参画すべきか考えさせられた分科会でした。



「たのしい子育て」全国キャンペーン
 ～親子で話そう！家族のきずな・我が家のルール

三行詩コンクール

平成22年9月7日（火曜日）県P連事務局において、『たのしい子育て全国キャンペーン』～親子で話そう！家族のきずな・我が家のルール～三行詩審査会を県P連理事で行いました。応募総数511点の中から厳正なる審査により小学生、中学生の部、各30点、一般の部5点を選出させていただきました。小・中学生の部は、県教委指導第一課の指導主事さんに第二次審査をお願いし、各5点を選出いただきました。どの作品も家族の事や自分の気持ちを素直に表現されており、選考が難しいほど良い作品が多かったと思います。なお、選出した15作品は（社）日本PTA全国協議会へ推薦させていただきました。応募して下さった皆様、本当にありがとうございました。

	郡市P連	学校名	学年等	名 前	作 品
小学校の部	三次市	志和地小学校	4年	きくま 菊間 五和	朝ごはんは毎日出るみそ汁 手にもつと みそ汁のあたたかさと おかあさんのあたたかさが伝わってくる
	三次市	八幡小学校	1年	こやま 小山 心嘉	いってきます いってらっしゃい はい、たち
	府中市	国府小学校	6年	かわおか 川岡 加奈	「はよ起きい」 6時の目覚まし 父の役
	庄原市	総領小学校	1年	しもおか やまと 大和	ごほうびは おもちゃかうより だっこして
	山県郡	豊平南小学校	4年	のぐち 野口 智史	「忘れもの」 「行ってきます。」少し歩いて思いだした。 「わすれもの」とさげんでもとる道 弟もわすれたわすれもの「なにをわすれたの」と母さんの声 「大好きするのをわすれた。」 にっこりきゅっとだきしめた。
中学校の部	福山市	福山中学校	3年	くろき 黒木 えり 絵理	「似ているね」 言われるたびに 私と母さんクスリと笑う
	福山市	福山中学校	3年	かわの 河野 ゆうき 悠毅	いってらっしゃい この言葉で エンジン全開
	福山市	福山中学校	3年	よこた 横田 りほ 莉歩	仕事から帰る父に「おかえり」と私 普段 無愛想な顔に フワリと笑みが浮かぶ
	東広島市	高屋中学校	1年	ささき 佐々木 えな 瑛菜	「ねえ聞いて！！」 笑顔の花咲く 我が家の食卓
	東広島市	向陽中学校	1年	しげい 重井 ちか 千佳	映画見て ふと横見たら 母の寝顔 いつもお仕事お疲れ様
一般の部	山県郡	雄鹿原小学校	30代	すぎもと 杉本 まきこ 麻紀子	ガミガミと 怒ったあとにママ反省… ぎゅーっと、ごめんね仲直り
	山県郡	豊平南小学校	30代	ながわ 中川 ゆか 優香	大丈夫。 たくさん泣いていいんだよ 涙が洗い流してくれるから たくさん笑っていいんだよ みんなが笑顔になるんだから
	山県郡	豊平南小学校	30代	もがわ 茂川 りほ 理穂	「我が家の甘えん坊達」 私が座っていると二人はくっついてくる 朝起きてから ものすごく「お母さん ああね…」 「お母さん」「お母さん」と二人でお母さん攻撃 たまに疲れるけれどいつでも 大好き！と 思われていたいな
	山県郡	豊平南小学校	30代	ほりえ 堀江 いこ 生子	「あのね」 母さん「あのね」 今日、学校で「楽しかったよ」、「悲しかったよ」 「うれしかったよ」、「腹が立ったよ」 毎日のいろんな気持、「あのね」に いっぱい つまってる…
	山県郡	豊平南小学校	30代	みやかわ 宮川 みほ 美帆	<娘の元気をもらって> 仕事で疲れて帰る日々。 「ママー」と元気に抱きついてきた。 元気をもらってまた明日からがんばろう。

第8回 全小・中学校PTA 母親代表研修会のお知らせ

日時 平成22年12月4日（土）

午後12時45分より16時30分

テーマ 「子育てを楽しみながら、女性として輝こう」

場 所 せら文化センター

世羅郡世羅町大字寺町二一五八番地三

内容 ○講演会

・ 演題

「妻・母・女性

3つの顔をどう生きますか」

・ 講師 馬場のぶえ

（広島テレビ放送株式会社

アナウンサー）

○分科会

・ 情報交換

（グループディスカッション）

鐘

本は、おとなが子どもに読んであげるものとは限らない。

読書が好き、弟妹に絵本を読んであげたい。...

生一四〇名が、七月二十四日広島県立図書館に集った。

「国民読書年」である今年、県教委が学校や地域で他の子どもたちに読書の楽しさや大切さを伝えるリーダーを育てる『子ども司書養成講座』（全六回）を開催する。第1回目の研修に、私は絵本の読み語りをする十五名の読書ボランティアの一人として参加した。

読み語りについて話をしたあと子どもたちに実際に読んでもらった。

飼い主に愛想を尽かし家出したブチヨロビッチヨロが、家に帰ってみると、自分そっくりのねこが飼い主と楽しそうに遊ぶ姿が...

「ニヤ、ニヤンでチコちゃんましがえるかニヤーしっぱがちがうじゃニヤーか」「ブチヨロビッチヨロはどこ？」より

大島妙子さく／学研

子どもたちのねこになりきった語りを聴いて思わず顔がほころんだ。人から人へ：温かい気持ちをもてて届ける。それは、誰にでもできることであり、誰もがしてほしいことだ。そのことを改めて確認した日だった。

(k)

公聴広報委員紹介

栗原 洋子 (山県郡)
藤井 正志 (三次市)
黒木 伸二 (世羅郡)
小出 哲義 (大竹市)
黒田雄次郎 (竹原市)
永田 剛 (安芸郡)
宮上 正好 (福山市)
板倉 泉 (神石郡)

編集後記

記録的に暑い夏も終わり、急激に秋の訪れを迎えました。この時期、県内でも多くの小、中学校で運動会が開催されました。季節の変わり目に体調を崩す大人達に比べると、子ども達の逞しさと、健やかさには、驚きを感じています。

小学校のPTA活動から始まり、今年は、県P連の活動にも携わるようになりました。私のPTAへの関わりを振り返ると、ただただ多くのPTA会員、役員の方々の熱心な取り組みに、日々励まされ、また感動してきた事が思い出されます。また子ども達の健やかな成長を促すために、まず保護者自身が自己研鑽することの必要性も身を持って感じました。PTA活動の輪が、これまで以上に大きく広がって行くことを願ってやみません。

第32号の「県P連だより」を無事発行することが出来ました。貴重な原稿をいただいた県内多くのPTAの皆様、心より感謝いたします。

平成22年度公聴広報委員会 小出哲義

充実の補償で お子様を サポートします

●誤って他人のものを壊したり、他人にケガをさせてしまったら...
(加害事故の補償)

インターンシップ(職場体験)やアルバイトに起因する賠償責任も対象となります。

●授業中やクラブ活動など、校内外を問わず発生する急激かつ偶然な外来の事故によるケガや病気*の補償

*病気入院補償はWプランのみ対象です。



団体割引適用で 割安な保険料！

(注)動産総合保険(携行品一式特約付帯)には、団体割引による割引は適用しません。
スクールメディカルデスク24でお子様の健康相談を24時間受付

●学校管理下中の学用品・身の回り品などの補償
●育英費用 等

充実の補償でお子様をサポートします。 広島県PTA連合会 小・中学生総合保障制度



小・中学生総合保障制度は子ども総合保険・動産総合保険(携行品一式特約付帯・学校管理下中のみ担保)のペットネームです。この広告は「広島県PTA連合会小・中学生総合保障制度」の概要について紹介したものです。保険の内容はパンフレットをご覧ください。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読み下さい。
詳細は契約者である団体の代表者の方にお渡ししてあります保険約款によりますが、ご不明な点がございましたら取扱代理店・引受保険会社までお問合せください。
この保険契約は、以下の保険会社による共同保険契約であり、東京海上日動火災保険が他の引受保険会社の代理・代行を行います。各引受保険会社は、契約締結時に決定する引受割合に応じて、連帯することなく単独個別に保険契約上の責任を負います。なお、引受割合につきましては、団体窓口にご確認ください。

平成22年11月作成 募文No10-T-05019



引受幹事保険会社

東京海上日動火災保険株式会社

お問い合わせ先・取扱代理店：(株)東海日動パートナーズ広島
保険会社：東京海上日動火災保険株式会社 広島支店 広島中央支店

TEL：0120-018-217
TEL：082-511-9194

共同引受保険会社

あいおいニッセイ同和損保

MS&AD INSURANCE GROUP

共同引受保険会社



三井住友海上火災保険株式会社